

文化交渉学 _____ 専攻 _____ 領域（博士前期）

試験科目：第 外国語（英語） / 専門科目（ ）

解答例：

毎日新聞の余録「雲のある日は爆撃しないこと...」（2024年3月12日,東京朝刊）を参照。

ポイント：

英語で記述された文化交渉に関わる文章の内容を理解の上、その趣旨が適切に伝わる日本語に移し変えられているか。

文化交渉学 専攻_____ 領域（博士前期/修士・博士後期・前後期共通）

試験科目：第1外国語（中国語） / 専門科目（）

文化交渉学 専攻 _____ 領域 (博士前期/修士・博士後期・前後期共通)

試験科目：第 外国語 () / 専門科目 (小論文)

一) ナウマンの主張は、まず日本の文明開化は欧米から迫られてやむをえず行ったもので本質的ではなく（蒸気船を操舵するも機関の止め方も理解できないようなもの）、また仏教は女性に心を認めない差別の宗教であるとする。鷗外はこれに反駁し、ナウマンは日本の開化の程度を曲げて伝えており、また経典に「女人成仏」を説く仏教の理解にも誤謬あり、女性も覚者になれるのだから心がないとするわけがない、と述べている。

二) 例えば、ナウマンは（いかなる思惑があったか定かではないが）日本について批判的なまなざしを持ち、それを正当化する材料として故意に仏教を攻撃する言説を利用している。またそれに反駁する鷗外も、「女人成仏」の内容を深く追究するでもなく、単にマウントを取るかのような議論に終始している。時代・地域によって異なるが、仏教は明確に女性差別のベクトルも持ち、同時にそれを救済する手立ても喧伝していて、相反する要素を内在している。時代・地域による個々の制約を自覚し政治的な思惑を離れ、自らのものの見方をこそ批判的に捉えてその問題点を浮き彫りにし、可能な限り客観的な認識に基づく物語り方を追求することが必要である。